

なぜ刑事被告人を採用?

岡本市長は市民に説明せよ

談合で有罪中司 前枚方市長

枚方市の市長時代に「談合の端緒をつくった」として逮捕された人物を、柏原市の職員として採用した岡本市長。議会にも市民にも知らせずに独断採用したことに対し、岡本市長は「二十年来の友人」(彼はシロ)「執行権は私にある」などと、市民を無視した発言を繰り返している。



「刑事被告人の採用はきわめて異例」と、報じる朝日新聞(昨年11月25日付夕刊)

既報のとおり、岡本市長は談合容疑で逮捕された中司前枚方市長を昨年十二月一日付けで柏原市の職員に採用(「嘱託」)、新設された柏原市の「まちづくり戦略会議」の座長に据える人事を強行した。

現在控訴中とはいえ、刑事被告人を非常勤として採用するにあたって、なぜ一言も議員や市民に説明しなかったのか。「そのつもりだったが、新聞にスッパ抜かれた」と十二月の定例会で弁明していた

が、はたしてそうだろうか。なぜなら、新聞の取材に対して「中司氏は二十年来の友人」としつと答えているからだ。本人がどれだけの有能であつても、「刑事被告人の採用はきわめて異例」(朝日新聞)であり、問題になるのは火目を見るより明らかだ。ましてや、業者の談合で逮捕者を出している柏原市、い

ことで名が知られるのではなく、こういうことで全国に知られるのは市民の恥」という市民感情を、市長は考慮したのだろうか。市民感情を無視している言われても仕方ないだろう。

また、議会にも知らされなかったのではなく、これまで市長の議会軽視もいままでもたびたび独断で専決処分をおこなってきた経緯がある。多くの異論があるなかで、岡本市長は「中司氏に何をやらせようとしているのか」というと、柏原版「事業仕分け」の責任者なのだ。まさにブ

はまうら佳子の元気が出るコラム

柏原市民のみなさま、新年おめでとうございます。年末から家々の門扉や庭、玄関をイルミネーションで飾る「イェナリエ」はいまや冬の風物詩になりました。わが家のある旭ヶ丘でも、各家が趣向を凝らした光の

「きれいですね。気持ちまで明るくなります。人々の賛辞に照れながらも、亀蔵は嬉しそうに光の旋律を眺めていました。スタートから5年目には、噂を聞きつけた新聞社が取材に来て、「地域の安全なわが街 防犯ルミナリエ」という記事を書いてくれました。

震災犠牲者を鎮魂する「神戸ルミナリエ」の成功にあやかり、「防犯」という言葉をつくつけました。空き巣や泥棒、放火などの犯罪が多発する12月に防犯意識を高めよう企画したものです。1999年の大晦日の夜におこなわれた点灯式は昨日

のよう思い出されず。新世紀を迎えるミレニアムのカウントダウンも兼ねてわが家のおこなったのですが、市の関係者からも大勢やって来たいへんなにぎわいでた。



「きれい」

ラックジョークである。中司氏は枚方市長時代に「談合の判決がくだった人物なのだ。端緒をつくった」として、有罪

二審有罪なら「辞職」 浜浦議員の追求に岡本市長明言

また、前出の「戦略会議」のメンバーも副市長以下、市の部長ら六人で構成されるといふから驚く。大阪府の橋下知事も発言しているように、事業仕分けは本来、政治家のやるべき仕事で、行政は仕分けされる側のはずだ。

十二月の定例会で浜浦佳子議員が「二審でも有罪になった場合、どうするの罪」と質問した際、岡本市長は「辞めてもらう」と言い切った。今後「忘れた」と言い逃れできぬように、この一言をここに明記しておく。

みなさまの声 募集中です。



かしわら見張り番

十二月の定例会での発言。これまた傲岸不遜な発言だ。そうまで言われて唯々諾々としている議会の方も変わる必要がある。

応援します! お母さん・働く女性



私たちは失敗もするし、間違いも犯します。ここで、間違いを犯さないこと以上に重要なのは、間違った時に素直に謝れるかどうかです。

しかし謝罪は往々にして簡単ではありません。謝罪を妨げる要因は、①プライド、②自分が正しいという幻想的信念、③恐れ、の3つです。

親子関係で考えると分かりやすいでしょう。例えば、親が自分の子どもから間違いを指摘された時、素直に謝れるでしょうか。

まず、プライドが頭をもたげます。「私は親。上の者が下の者に謝ることはできない」と、自分を正当化します。

間違わないことよりも重要な「謝罪力」

次に、親である私の判断力は子どものそれよりも正しいはずだ、と考えます。人生を長く生きた分、経験も多いし分別もある、という信念。これはほとんど無意識なだけに厄介です。



3番目に、恐れが謝る勇気をくじきます。「私が意を決して謝ったとしても、子どもが素直にそれを受け入れてくれるだろうか?」という恐れは、決して小さいものではありません。

この3つを克服できるものが、「相互尊敬」という人間関係の基本原則です。これはどんな人間関係でも、例外なく当てはまります。子どもが親を尊敬すべきなのと全く同じく、親も子どもを心から尊敬すべきなのです。この尊敬心があれば、人間関係はどんな場面でもスムーズに流れるようになります。自分が間違ったと気づけば、素直に謝ることもできるようになります。

間違ふことはマイナスのようですが、そこで素直に謝ることができれば、そのマイナスの数十倍のプラスを作ることができるのです。

「謝罪」は言葉が過ぎるが、岡本市長の独断が、市民の目線からかけ離れたものがあるほど。「混雑」は言葉が過ぎるが、岡本市長の独断が、市民の目線からかけ離れたものであることは確かだ。市民の会の藤森洋一議員が説明を求めたところ、岡本市長は「中司氏はシロだ。採用の執行権は私にある」と答弁。独断を正当化する市長に対し、議会の反応はまったく鈍

informorion イベント等のお知らせ

■大たこ揚げ
1月24日(日)午前10:00
大和川河川敷河内橋下流
大正西地区自治推進連絡会が毎年恒例の大たこ揚げをおこないます。当日参加も可。

■月イチ朝市「とくとく市」
1月24日(日)午前9:00
~正午(売り切れ次第終了)
JR柏原駅西側アゼリア周辺/地元商店会、地元農家から選りすぐりの商品が並びます。連絡先=柏原市商工会 (TEL.972-0881)

パトロール

書は体を表すと、市議会での岡本市長の発言を聞いて「行事やイベント、選挙戦の演説などで見ると、ソフトで人あたりのやわらかな人物、というイメージだが、議会では「オキ、コラ」というのはごく普通で、品位を欠く発言が絶えない。自分の意に沿わない議員に対する「口撃」は活字にするものはほかれるようなものがある。市政を追及する浜浦佳子議員に対しては「アホ」「もういっぺん小学校行けや」など、人権侵害といつていいほどの言葉を浴びせている。こうした暴言は私を選んできた市民を侮辱したに等しく、許されるものではない」という浜浦議員の憤りは正論だ。『給与一千万円を払う値打ちのある議員はいない』昨年十二月の定例会での発言だ。これまた傲岸不遜な発言だ。そうまで言われて唯々諾々とする必要がある。